

いもう 葦毛通信



カマツカ

平成 30 年 6 月 13 日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町 3 丁目 1
TEL : 0532-56-6060

No. 66

1、2018モニタリング報告－1

葦毛湿原ではハルリンドウ、ミカワバイウケイソウ、カザグルマ等の春の花が終わり、トキソウも盛りを過ぎました。いずれも開花数は増加しており、大規模植生回復作業の成果が表れてきていると思います。現在は、トウカイコモウセンゴケ、モウセンゴケ、ノハナショウブ、カキランが咲き始め、夏の花に交代しようとしています。

1) ハルリンドウ

ハルリンドウの開花数は2015年から計測を始めました。大規模植生回復作業を開始する以前の最高開花数は4,500輪程度だと言われていました。

ハルリンドウ年度別最高開花数

年度	観察日	最高開花数	増加率
2015	4月18日	2,000輪	1.00
2016	4月11日	6,475輪	3.24
2017	4月19日	6,098輪	0.94
2018	4月13日	9,584輪	1.57

ハルリンドウは計測を開始した2015年以降、順調に開花数が増えています。4年間で約5倍に増加しました。

ハルリンドウはM地点やJ地点で多く開花しています。ここではヌマガヤやネザサが優勢になっていますが、冬季にネザサを刈り取って日照を確保するとハルリンドウが増えることがわかりました。ハルリンドウは、ある程度土壌があり、やや乾燥気味のところが好きなので、日照さえ確保すれば、ネザサと同じ場所でも十分に増えています。



ハルリンドウ近景 (2018年4月16日)



M地点ハルリンドウ遠景 (2018年4月16日)・ここだけで4,000輪以上が開花！

2) ミカワバイケイソウ（愛知県絶滅危惧ⅠB類）

大規模植生回復作業開始以前には、ミカワバイケイソウは葦毛湿原の指定地内にはあまりないと言われていました。指定地の東側に接する国有林の中に大きな群落があり、この部分だけが木が少なく日照がある程度確保されていたところでした。

ここは三の沢の源流部に当たり、背後の崖から湧水しています。水量が多いために木の侵出が遅く、これまでかろうじて湿地状態を保っていたと考えられます。しかし、かつての三の沢湿地はもっと大きく、東側の国有林の奥に向かって伸びていたそうです。しかし、現在はそのほとんどが森林化してしまいました。

ミカワバイケイソウの計測は2015年から開始しました（右一覽表）。自生数は、本来株数が計測できれば良いのですが、密集しているところで株を確認するためには、近づく必要があり、湿地内に深く踏み込んでしまうこととなります。そこで、遠くから確認できる範囲で、茎の本数を計測しています。つまり、実際の株数はこの数値よりも少なくなります。

ミカワバイケイソウの開花は、当たり年と裏年があり、2～3年に一回程度で多く咲く年があると言われていました。最高開花数は指定地内では2015年の12輪から2016年には83輪に急増しています。しかし、その後増減はありますが大きな変化はありません。

これに対して、国有林内は計測を始めた2016年には318輪と多く咲きましたが、2017年には86輪に激減し、今年の2018年には252輪と前年の約3倍に増えています。国有林内では隔年で当たり年になるようです。

自生数は、L地点で間伐を行って明るい森にした直後の2015年には808本確認できましたが、小さなものが目立ちました。この後、若干少なくなつて推移しています。L地点は伐採後4年目になり、日照が徐々に悪くなっています。

ミカワバイケイソウの最高開花数と自生数						
年	国有林内		指定地内		全体	
	最高開花数	自生数	最高開花数	自生数	最高開花数	自生数
2015	—	—	12	808	12	808
2016	318	—	83	758	401	758
2017	86	639	52	611	138	1250
2018	252	1400	71	687	323	2087



国有林内のミカワバイケイソウ（2018年4月23日）

指定地内は、最高開花数、自生数ともにある程度安定している状態にあります。

これに対して、国有林内は 2017 年から自生数を計測していますが、今年の 2018 年に自生数が 1400 本になり、大きく増加しました。三の沢では 2015 年に木を伐採し、2016 年にバックホーにより抜根作業を行いました。指定地内の木を切ることにより、国有林内の日照は大きく改善しました。自生数が増えたのは、自生する株が多く、長期間にわたり維持されてきたところで、日照が改善されたために茎の本数が増えた可能性が考えられます。

指定地内は大規模植生回復作業で木を伐ってから発芽した個体が多く、まだ十分に成長しておらず、その後、他の植物の成長により、日照が悪くなってきているために各株の成長の度合いが遅いのかもかもしれません。

3) カザグルマ (愛知県絶滅危惧II類)

カザグルマは開花数が順調に増えています。葦毛湿原調査員が計測していますが、2014 年は 10 花以下、2015 年は 62 花、2016 年は 82 花、2017 年は 175 花、今年の 2018 年は 211 花に増えました。開花はしていませんが、新たに発芽して成長を続けている個体も多く、今後も、開花数の増加が見込まれます。かつて、カザグルマの開花数は 10 花以下に減って絶滅寸前だったことを思えば、順調に回復していることがわかります。

カザグルマは巻き付く木がある場合、4～5 m 程度の梢に多くの花を咲かせます (下写真右)。しかし、巻き付く木がない場合、地面を這ってネザサ等の他の植物に巻き付いて開花します。下写真右のカザグルマはここだけで 70 輪ほどが咲きました。この他にも数輪程度が開花している個体が各地点で数多く見られます。これらの個体は今後成長し、多くの花を咲かせてくれるようになると予想しています。



B地点のカザグルマ (2018年5月1日)



J地点のカザグルマ (2018年5月3日)

4) カキラン

カキランの開花数等は計測していませんが、湿原内のあちこちで増えています。今年も集中して咲くところがいくつも見られるようになりました。

カキランは毎年同じところで同じだけ咲くのではなく、集中して咲くところが移動しているようです。昨年多かったところが今年は少なくなっています。このような傾向は、ノハナショウブにも見られます。



J地点のカキラン (2018年6月10日)

2、ナガバノイシモチソウが**開花**しました！

ナガバノイシモチソウの開花を6月3日に確認しました。昨年は6月24日なので、3週間以上早くなっています。

開花したのは第3地点（右写真中央やや左から右上）で、6月3日の開花数は5輪でした。4日には7輪になり、7日には第2地点でも3輪開花し、第3地点は25輪で合計28輪になりました。9日には第2地点で4輪、第3地点で81輪の合計85輪、10日には第2地点で2輪、第3地点で71輪、第5地点で1輪、第8地点で3輪の合計77



第3地点全体（2018年6月10日）

輪になりました。さらに、13日には全体で129輪になり、開花数は順調に増加しています。

第3・5・6・8地点では、ナガバノイシモチソウの成長が早く、密集して白っぽくなっているところはいくつも見られます。南側の木を伐って日照が良くなったためなのか、それともこれまでとは異なる開花傾向の休眠種子が発芽したのかはわかりませんが、開花期間が長くなるのは、ナガバノイシモチソウが持つ性質がより多様になった可能性が高いと思われます。いずれにしても、良い傾向だと判断しています。

一方で、第1地点等では発芽間もない個体もある程度見られ、現在も発芽が続いていることがわかります。また、4月14日に初めて発芽を確認したところでは、その後成長がうまくいかず、ほとんどの個体が消えてしまったところもいくつか見られます。ナガバノイシモチソウはすべての地点で順調に増えているのではなく、大規模植生回復作業開始以後、各地点で増減しながら、全体として毎年前年の約2倍のペースで個体数が増加しています。



第3地点北側の集中部（2018年6月10日）



開花状況

ナガバノイシモチソウ観察会

今年もナガバノイシモチソウ観察会を開催します。

開催日：8月4日（土）・19日（日）の9時30分から11時30分

場所：幸公園北側のナガバノイシモチソウ自生地（豊橋市佐藤町字池下）